

令和3年度事業計画の重点

1. 新型コロナウイルス対応の安心・安定した園運営の継続
2. 木の花版3歳未満児保育の課題改善
3. 日常生活と年間行事の在り方の見直しと再編成
4. 新時代に対応できる多様な協働的スタッフ体制の構築

1. 新型コロナウイルス対応の安心・安定した園運営

視点	項目	実践したことでのよかった点、改善されたことなど	課題として挙げたこと	改善へのヒント・アイデアなど	
新型コロナウイルス等の安全管理対策	職員対応	職員の出勤規定の運用とコロナ公休の弾力的運用	応援サポーターの登録者増を図り様々にサポート		
		職員ラインの設定(園長も入院を機に初参加)で体調不良等の休み連絡の共有にも活用	ルール性は？	正月休み中は職員ラインはしない。	
		新型コロナウイルス対応マニュアルのリメイクと園内チェックリストによる安全確認(レベル別)・・・、レベルに応じた園生活の見直し(クッキング、遠足、活動のあり方など)			
		園医(ワクチン接種、情報提供など)、学校薬剤師(空間における二酸化炭素の排出の測定など)との連携、新聞記事などによる情報収集によるコロナ理解			
		早番・早二番等のローテーション体制の見直し・・・スタッフの安心感 親の安心感			
		職員のZOOM会議の開催・・・緊張感がある、可能性が広がる(いないスタッフとも話し合いに参加できる)	Wi-Fi環境の不安定さ。場所が限定。	ICTの研修を職員が受ける ICTに強い人材を確保する	コロナの影響で園の会議、行事もオンラインが増え、それに対応する設備の充実(wi-fi環境、高スペックのパソコン)も必要。
設備・備品等の対応	コロナ補助金の活用で各種衛生備品等(マスク、消毒、使い捨てエプロンほか)の購入	購入品の限定の縛りがあり、本当に必要なモノが購入できない			
安全管理マニュアルの見直しと運用	緊急時フローチャートの作製が見やすくわかりやすい。 サーベランスの運用による感染状況の実態把握・・・今年度より登録、運用を行う	登録に留まり、実践活用には至らず	役割、使い方を担当に伝える		
来園者対応	外部者の出入り日時と消毒、検温と記録の管理	時々測り忘れ等がある	来園者カード(日時 氏名 検温結果など)の用意		
保護者対応	オクレンジャーの活用	必要に応じたコロナ対応の連絡もオクレンジャー配信は親が必ず見てくれる	休日のオクレンジャー配信をどうするか？	使用しない。全員に送付する。	
	保護者向けコロナ対応お手紙の発行	レベルに応じ、随時発信した保護者への依頼事項のおたよりでの適宜協力事項の伝達。お休みに関しての協力、理解を得やすい。	どのレベルなのか？が手紙をみないとわからない。お休みの子の記録がどの段階かわかりにくい？ 家族で発熱がでたようなケース。確認すべきか？	都度都度の確認が必要 ⇒保護者会が園の「レベル」の表示を玄関のタレット下に作ってくれた。	
	タッチパネル導入	親の意識面 安全への意識の高まり	職員負担の軽減 間違い減少が期待	1号の降園及び登園時は？	登園、降園のタッチパネル操作を親に依頼する。 ⇒玄関に設置する。
	ZOOMビデオトーク	マスクなしで表情がわかる	親の評判がいい(手間がいらぬ。)気楽に喋れる	PCが古すぎる。専門スタッフがいないと対応できない。	
	庭からの出入り	レベルに応じて玄関の密を避け、園庭からの保護者の出入りにより、遊びの見える化・・・親の意識面安全認識に繋がる			
	マンボウ期間の対応	夏場の感染拡大(第5波)を受けて同窓会、夕涼み会の中止を決断			
安全教育上の対応	避難訓練	月1回実施を原則として様々な状況を想定して実施。	月1回難しい。日程調整の課題。長期休業などスタッフ人数減の際の対応	長期休業期間にも実施する。	
	安全教育的狙いと手立て	テーマ別に各学年での策定と実践の継続			
	グルーブクッキングの健康チェック 延長預かりの空間分散化(1,2階の分散)	子ども及び親の意識喚起につながる ぐみにとつての安心感。どちらに行ってもいいという緩さもあり、色々な子に対応	家庭により温度差がある。	クッキング担当園児にはチェックリストがあってもいい	
行事等の見直し	全体	全体として中止ではなくやる方向で考えたのがよかった。			
	運動会の地域開催	地域の人に練習風景をみってもらうことで地域の人に知ってもらうきっかけ	地域対応の場合、人の付き方が大変 お散歩カーが活躍	お散歩カーをもう1台購入	
		地域としての本物の体験 地域との交流を通じて子どもたちが地域を意識する	運動会を実感する機会がなかった(1歳児)	時には庭で運動会の練習をする日も設ける。(あるいは全園児。小さい子、体操など。)	
		子どもたちの体力アップにつながった。	暑さ対策	大型テントの購入 ⇒施設機能強化加算で購入	
	川遊びのおまげがついてくる、というモチベーションにもつながる取り組みだった。				
	木の花祭りの分散開催	お祭りのイメージで運動会から木の花祭りにも繋がっている。			
年長のお店に買い物に行ける醍醐味、年長・年中の縦割りの店での交流にもなった。		分散して行事をする際の空間の使い方(取り組み含め)	終礼時に使い方などを確認、共有		
異学年での子ども同士のつながりを生み、買い物体験ができた					
分散してやり続けることでぐみにとつて目につきやすく刺激になった	天気は左右される。日程変更への対応。予備日の設定を再検討	等雲寺さんに色々活用をお願いしてみる			
クリスマス会(オンライン配信)	空間を広く活用しての音楽表現ができ、かつ音楽サークルによる歌、演奏での刺激がプラスに作用	クリスマス会の人の居場所(二階を親とぐみ・プチとどう座席を確保するか)	子どもを優先した座席配置を事前に行い、保護者にも注意喚起		

自由記述 (他によかったことや今後に向けて取り組んでみたいこと、課題やその改善、気付きを活かす、良さを伸ばすためのアイデアなど)	・来園者の体温チェックなどに課題。お客さんがもう中に入ってしまい、話が始まっている時に声をかけづらくあまいになってしまっている。学校のように表にして玄関先に置いておくのも良いかも。
	・コロナと共にの生活を送る中で、日常の生活においては、手洗いの習慣が身に付いてきていたり、食事の後に使った椅子を拭くということも、毎日の積み重ねで年少さんも自分でできるようになってきた。習慣として、毎日のことが身に付くのはいいことだと思う。 ・行事に関しては、感染状況によって、中止や延期という事もあったが、他の行事に組み込んで行こうとすることができたのが良かった。その背景には保護者の方の理解と協力があることだと思う。お家の方も何とか「やりたい！」という気持ちがあるから実行できたように思う。親御さんも、臨機応変な対応に慣れてきたのかな。保護者の方の協力はほんとうにありがたい。神社でのお店屋さんはお客さんがたくさん来てくれた事で子どもたちの気持ちも上がったと思う。あの雨の中、気持ちが沈まずに出来たのは、子どもたちの「やる気」は勿論の事、お客さんの見守りがあってのこと。協力的な親御さんだから、これからも色々な冒険もできそう！
	・行事について、コロナだからやらないというのではなく、いかに工夫して開催できるかを考えていく雰囲気・姿勢は木の木の強みだなと思う。天候や場所の模索など課題も当然あるが、だからもう止めようとはならない。これからは新しいやり方にとりかかってみようと思う。
	・ぐみにとっていろんなところで色々な活動を見てから自分たちも体験できたことがとてもよかったように感じる。ただ、タイミングが合わない学年の活動(年中さん)は全く絡みがなかったり、何をしているのか分からなかったり、お店の商品を買ってあげたり…発表会の取り組みの時に決めた明日何をするのかすり合わせを終礼の時間を使ってするを全学年出し合える形を作っていたら感じる。
	・職員のお休があったことで体調が不安な時には休みやすかった。冠婚葬祭時には出席していいの？悩んだ。マンボウが出る前後だったが、他の親族は参加後1週間休みという扱いで、ある程度レベルが上がっていたら状況をみて出勤を控えたほうが良かったのか？悩んだ。
	・現時点でコロナ第6波と下痢と嘔吐が同時に流行している。学校薬剤師さんの助言により、部屋の戸の持ち手の消毒をするようにということもあり、コロナ補助金で購入してもらったペーパータオルを活用し消毒に活用している。使いやすい場所に置いておくことですぐに消毒ができ捨てるのが可能なので、ゴミが増えるという点では良くないことかもしれないが衛生的には良いことだと思う。状況を見て消毒の仕方を変えて対応していく。
	・避難訓練について、長期休業期間にも実施するという改善点があったが、特に未満児に関しては時期によってはおんぶが必要であったり、お散歩カーでの避難が考えられるので、万が一起こったことを考えて以上児の先生も交えて一緒に避難する経験が必要であると思う。未満児の担任もその場合の対応の仕方を想定しておいた方がいいと思う。
・密を避けるという目的で園外に出ることが増え(運動会や木の花祭りなど)、子どもたちが地域のことを知るきっかけになっていたと思う、逆に地域のひとからも子どもたちの姿(木の花の保育)を知ってもらって見てもらうきっかけになっていたことがよかったと思う。また、夕涼み会が中止になってしまい残念な面もあったが、運動会のプログラムの一部に夕涼み会の要素も取り入れ、子どもたちが「夕涼み会」という行事を少しでも感じられる機会を作っていたのがよかった。	
・コロナの状況が日々変わっていく中で、今がレベル何で何が出来ないかが私自身興味だった部分があった。行事の度にみんなでアイデアを出し、感染対策をしつつも子どもたちの経験や学びの場を考えていたと思う。	
・コロナの感染拡大防止のため中止になったり延期になった行事もあったが、そんな中でもどのような形なら開催できるかを考え、工夫して行ってこれたところが良かった。また、空間を分けての活動(特にさいころ、あんぼでの)は、感染防止の効果だけでなく、子どもたちにとっても大人にとっても活動の見えやすさだったり、じっくり遊び込むにはいい環境だったと思う。 Zoomやオンライン配信など、コロナ禍での情報共有、発信にとっても有効だと感じる、また、今の時代にも合ったやり方だと思うので、色々な場面で活用していくといいと思う。パソコンが古く、動きにくいと感じることがよくあるので、改善することで起動・接続する時間の短縮になったり、働きやすさにもつながると思う。	

観点	評価 A:自信をもって B:概ね良好 C:改善の余地有 D:課題である E:全然出来ていない					園長	教職員							
	A	B	C	D	E		無							
新型コロナウイルス対応の安心・安定した園運営の継続	園は、新型コロナへの感染状況に様々な観点から留意し感染対策に取り組みつつ、家庭の理解と協力を得ながら教育・保育が継続的に続けられるように努めている						B	1	12	2				

## 2. 木の花版3歳未満児保育の課題改善

視点	項目	実践したことでのよかった点、改善されたことなど	課題として挙げたこと	改善へのヒント・アイデアなど	
ぐみの姿(見える化への課題改善)	本園	伸び伸びと遊ぶ	自然とぐみが活動にも混じっている		
		本園にいることが自然に感じられる	本園の自由遊びに自然に入っている	安全面は？(特に1歳児)	
		ぐみ棟に閉じこもっていない なるべく本園に、を意識	本園に来る機会が多く、ぐみの姿をよく目にする	交ざる際の安全面 二階ベランダでフリーの状況	
		空きスペースを活用して伸び伸び遊ぶ時間が増えた		大人の目を意識するときの遊びとそうでないとき全然違う。	気配を消す 一人一人の学びの方向性を知っていれば(共有)、対応が変わる。(見方が変わる)
		本園のホール、庭を独断的に使える中で伸び伸びと遊び込める。道具の使い方など。		赤ちゃん扱いをしてしまう。→ひとりひとりの学びの課題の抑えが弱い	月ごとに一人一人の育ちを共有する。(週案のオープン化で職員会議の場)
		ぐみであっても状況、環境に応じた遠慮などもする	怖いもの知らず 行動半径の広さ		
		昼寝のときに寝ない子が自然に遊びにでてる	スタッフ側の意識が無理に寝かせなくてもいい。		
	去年は午睡を取らせることに力点が置かれていた。しかし今年は子どもの意思で寝ないことも選択できている。その結果、遊び込んでいる。				
	園庭	庭のモノの使い方が面白い	本園の園庭おもちゃの場所を分かっている。		
	園外	勝手に以上児の遊びに入っている	色々なモノを出す。レンガ、木片、パイプなど場所を知っている		
ぐみ棟での生活、遊びへの課題改善	ぐみ棟	1. 2階の部屋チェンジがよかった。	3階スペースが物置化	収納や片付けの工夫 ⇒収納グッズなどの購入	
		1歳、2階に替えてみると庭に出たいかない、見ることで満足 階段の登ったり、降りたりがしたいという欲求	巧技台の置き場所が無い	デッキ、3階スペースの活用	
		2歳はお昼前後など時間も気にせず出入りがしやすい。子どもが主体的に出やすい。	ぐみ棟の中の生活 空間での運動遊びの工夫が必要	階段スペース…臆病になる。1. 2歳の運動機能への信頼感？	
	モノ・遊具	本園での遊びの面白さ(叩くものなど・・・テーマ別の自由遊び指導計画の実践)を堪能	モノがどんなものか？	おもちゃチェンジ(意識的に入れ替えを行う)	
		イスやテーブルを使って遊べるように活用。(でも壊れる。)	モノがマンネリ(ぐみ棟)になっていないか？	1~2か月ごとにモノを入れ替える	
	生活			モノに頼ってしまう。ぐみ棟で空間を使ってあそびづらい	
		身辺自立が進んでいる(着替え、排泄)	見通しを持つようになる。	1歳の子が多いので生活の作り方が大変。	生活スペースを分ける(食べる・・・1階 寝る・・・2階)…活動のスペースは？ ⇒本園も活用
		何回も繰り返しやっていることが楽しい。		大人の取り合いになる。泣きが入ると大人が釣れる。お利口さんでの自分アピール。	まつくりさんの子どもが先生で助っ人に行く
		冷たい水でも大丈夫。手洗いが多い。			
			自分のモノを自分で持って行くことで自信がつく、自分のモノの意識が出る		

		朝の準備を自分でできるようになった	2階へも自分で自分の荷物を運べる			
ひと		スタッフの顔を覚えて安心感、好みもでる。				
異年齢交流(非日常含む)の課題改善	以上児との交流	本番を体験したのちに実際に体験、やることで身体にすりこまれる				
		交流がしやすくなった				
		まつくりの先生の手伝いがいい 寝かしつけ 着替え お昼ご飯。密に関われる、甘えを出せる				
		まつくりの対人関係能力や自信につながる		年中さんとの交流が少ない	一日入園の取り組みの中に入れるといいのでは。お散歩に行ったり、「まつくり先生」のように何人かでぐみ棟に行ってお手伝いもい	一日入園前に散歩や一緒に遊ぶ時間を確保する
		以上児へのおびえがない	早期、延長での触れ合い、関りの効果	年中の取り組みが見に行けない。	いかも。コロナ禍で実行しにくいかもしれないが、一日入園後にお昼ご飯と一緒に食べるというものありかな。	寝ない子が帰りのお集まりの時間にちょこっと参加させてもらう
		まつくりの似顔交流が繋がりのきっかけに交流が日常レベルに			終礼などで空間の活用を確認。通ってみたりする時間を確保	
		木の花祭りの様子をみて1歳でも状況を読んだり、遠慮もする				
		行事を経て憧れが強まる				
		年長の取り組みを姿をみて憧れをもつ。家でも年長の話をいっぱいする。				
		生の姿をみて刺激をうけている				
異年齢交流(非日常含む)の課題改善	ぶち交流	お泊り保育のおすそわけが刺激いっぱい。(食事 プールなど)				
		運動会後のモノの使い方が上手い、それを活用して遊ぶ				
		発表会後のモノ(あり)もう使えない、見ている時間を経て、それを使える環境が出来た時の遊び方がやりたい気持ちを爆発させる。今度はつかうぞ、と発表会等の見方をする。				
		何回もくりかえすことでお互いの顔を覚える。			終礼の時間のあとか、おやつ時間帯にぐみの先生が抜けて年少との打ち合わせの時間を持つ	
		ぐみにとってプチとの交流を徐々にすることでぐみの子にとってプチの認識が進む。ぶちにとってのぐみ棟での場ができる	ぐみと年少の先生との連携の時間とれない。	まつくり先生のお手伝いの派遣		
		1, 2歳の交流		2歳ぐみの子へのあこがれを1歳児ももつ。		年少・ぶち・2歳ぐみ合同でのクラス分け(チーム保育)

自由記述 (他によかったことや今後に向けて取り組んでみたいこと、課題やその改善、気付きを活かす、良さを伸ばすためのアイデアなど)	・3年目に入ったが、いまだに悩むことが多く、試行錯誤を重ねている。困っている時には、お互いに相談しながら、クラスの枠や固定概念にとらわれず、その子にとってなにかよいのか考えてやっていきたい。以上児の先生たちも、ぐみの保育について遠慮せずに意見を言ってほしい。				
	・ぐみの子たちが本園の方に来て遊ぶのはとてもいいことだと思う。特に2歳のぐみは2学期中頃から、プチとの交流もあって本園に来ているが、遊び方もダイナミックになってきた。ぐみ2歳の子のお昼寝に関しても選択出来るのはいいことで、お昼寝しないで本園で遊ぶ、と子どもたちが柔軟に選択できることはいいと思う。ぐみが午後の時間も遊びに来ていると、預かりで顔を合わせている以上児の子が声をかけていたりする。				
	・15時すぎても布団でゴロゴロしている子がいるが、「一人一人のペースに合わせているために」ということだと分かるのだが、一つの区切りとして「15時にはおやつを食べる」というリズムを作ることは子どもの育ちに反することになるのだろうか? 15時に食べたなら、その後の時間を有効に使えるのではないだろうか。また、遅くまで寝すぎてしまうと、就寝時間が遅くなり朝もなかなか目覚めることができない、という悪循環になってしまうのではないか。				
	・ぐみはその年ごとに学年のカラーが全然違うのが面白い。今年は本当に物怖じしないタイプの子が多い、プチの方が圧倒され気味だったが、交流を重ねるうちにお互いの存在感が混ざり合って馴染んできたと思う。そういう意味で、1月に集中的に交流する期間は意味があると思う。				
	・今、年中さんが一日入園に向けて取り組みを進めていく中で、ぐみ棟の子達と散歩に出かけたり、一緒に遊んだりしている関わりがあり、年中さんが「3歳未満児さんってこんな感じなんだ～」と意識しやすく、イメージを掴み取っている、この時期により取り組みだな～と思った。年少、年長の発表会の取り組みでホールに出にくい、部屋に閉じこもりがちになるこの時期なので、そういう点においても気分転換に良いと思った。				
	・未満児が本園に来る頻度は、かなり多くなり、日常的に自然な感じで交流出来るようになってきたと感じる。それについては、本園とぐみ棟のスタッフの移動が(本園の生活を熟知しており、遠慮せずに行き来しやすいという点で)大きく影響しているのではないかと思う。空間スペースや収納については、ぐみ棟のスタッフだけでなく、みんなで整理する日を設け、必要なモノ、しまうモノについても考え合い、共有出来たらいいと思う。				
	・2歳児ぐみの学年カラー的に型にはまりやすそうなことが見えてきて、フレキシブルな保育の組み立て(思い付きを実行するなど)を実践したり、広い空間になるべく飛び出していく保育をしていったおかげで自由な発想を楽しめるようになってきたかと思う。しかし、課題でも出てきたように、担任は分かっているけれども他の先生に伝えられていない部分が多かったり、午後からの保育時間をうまく使いこなせない時もあった。午後からの保育の組み立てがもう少し詰めていけたらと思う。それに伴ってお昼寝も現段階ではフレキシブルに対応している部分も多いが、個に合わせる形をとっている、結局なかなか午睡から起きることができず、おやつ時間がずれ込み、やりたいことが出来ない、ということも多かった、お昼寝の指標も徐々に作っていった方がいいのではないかを感じる。				
	・自由遊びの時間、あるいは預かりの時間などに、以上児がぐみ棟に自由に入出入りするようになってきた。本園の子にとってもぐみ棟が遊びの空間が広がり、未満児たちとの関わりが繋がっていると感じる。未満児同士だとトラブルになりやすいことも遊びが分散されることで、そうした状況が生まれにくくなった。				
	・年中とは2学期までだと行事が続くため交流が難しかったが、年中が一日入園に向けて活動をするが一日入園対象の子どものイメージができないということで一緒に散歩に行く機会を設けた。現時点では散歩しか行けておらず、朝の自由時間に一緒に遊ぶ予定をしていたがコロナが流行し密を避けた方ではないかということと一緒に園で遊ぶことはできていない。だが、散歩に行った先の広場で年中が木の枝で遊ぶのを真似したりかくれんぼに交ざって一緒に参加したりと少しは交流できた。また活動ではないが、お昼寝をしない子が年中の帰りのお集まりに参加させてもらうこともあった。一日入園に向けて、年明けから交流するがよい時期なのかもしれない。木の花まつりで別年同時にお店を出していたが、お店を実際に見てからアフターで園児に向けてお店を出すことで経験を生かして、ゆとりを持って行うことができた。ぶちで入園したての子にとって保護者がお店に買いに来ることで辛い思いをするなら、ぶちもぐみと無理をせずにアフターでお店と一緒に出すのもよいのかもしれないと感じた。				
	・去年よりも本園に遊びに来ていたぐみを多く見かけた。その子だったからというもあるが、土曜保育で1日ぐみが本園で過ごしたが日頃来ているので自然と1日過ごすことが出来た。				
・ぐみ棟が出来たころはぐみの子どもたちの顔すらわからなかった。それは年々変わってきて最近ではぐみの子どもたちがボールや絵本コーナーで遊んでいる姿を見かける。本園の年長の男の子たちがボールを蹴ったり 走り回っていたり スケートーでそばを通るつい危ないと思い十分注意をしなければならぬ。少子化で小さい子への思いやる気持ち 気付かないところは大人がカバーし助言が必要。しかしあまり神経質になることなく見守っていききたいと思う。					
・年中は行事が立て続けにある為、なかなかぐみと関わる事が出来なかったが、一日入園を前にして、一緒に散歩へ行く機会を少し持つことが出来た。担任同士連携して、みんな一斉ではなく、ラフに取り組みの合間を見て数人ずつでも関われる機会を持たりたいと思う。お昼寝をしない子が本園に来て、以上児と一緒にのびのび遊んでいる姿がいい。					

観点	評価 A:自信をもって B:概ね良好 C:改善の余地有 D:課題である E:全然出来ていない					園長	教職員						
	A	B	C	D	E		A	B	C	D	E	無	
木の花版3歳未満児保育の課題改善	園は、3歳未満児が安心・安定した園生活を過ごせるよう配慮しながら、一人一人の育ちの環境づくりを工夫し、以上児にも響くような未満児保育の取り組みに努めている					C		12	3				

### 3. 日常生活と年間行事の在り方の見直しと再編成

視点	項目	実践したことでのよかった点、改善されたことなど	課題として挙げたこと	改善へのヒント・アイディアなど	
今年度の本園での諸々ピック	園庭での大穴作り	色々な子どもたちの季節を通じての遊びが集う場になっていた。 「びよんびよん橋」の存在がよかった(ぐみの子含めやってみたくなる) 堰止め湖になっている(遊び場にもなり土が流れるのを留める存在)			
	年長の取り組み	カメのロックをペンキ塗りで完結できたことで子どもたち自身の充実感。			
	木の花版SDGs	2歳のごみ捨て当番・・・本園に行くきっかけ、1歳の子もゴミ捨て当番に行きたい。			
		キエーロのお手伝いを意識的に以上児がしにきている 田んぼの設置で色々なこが田んぼ体験。活動にも寄与。	ゴミの減量化 花壇の土に還元される		
	縦割り(以上児)	年長・年中さんの縦割り遠足が体力ややる気につながるなど、行ってよかった。遠足ウィークであちこちに色々なところへいったことを園で話題にし合っていた。 お列のメンバーが馴染みやすい。	年少が年長、年中を感じる機会がない。	年少含めたお列チームで集まること、新お列にできるなど早めに体験 お列に出ることで発見するモノを見つけ地図に書き出すことで思いとメンバーシップを共有	
	ぐみと以上児の交流	日常的な関わりの機会、タイミングが増えた。 本園の職員も意識するようになった。	自由遊びのメンバーの固定	仕掛けが必要なことも(指あみなど年長が年少に教えるなど)	
	お列		お列に出ない子が多い。(親の思い、子どもの思いなど)	おのこりをしている子も行きたい子はお列に出る	
	早期・延長預かり	異年齢交流	4時半での移動で行動のメリハリ、生活の流れができる 預りのお集まりの時間の有意義さ		
預かり(おのこり)	荷物	預りの荷物置き場としてのコート掛け。自分で意欲的に自分の場所にかけている。忘れ物、落ちているモノが減った。 子どもが自分で荷物を管理できるようになった。	普段で会わないような異学年交流になりにくい(今年も)	テーマ別の取り組みを行うことで、新しい関係が見られるといい。 年少、タオル掛けをホールに出し、コートだけでもかけてはどうか・・・。	
	おやつ	自分で選択できることで子どもの判断で遊びが継続できる 年長がおやつ配りの自覚や自信につながっている シールノートをみながら子供を呼ぶことで、字について認識を深めるきっかけ	自分では管理しにくい子に対してのフォローが必要	⇒ラジオ体操のようなカード方式にして園に置いておくのほどうか。	
	シールノートの活用	集計しやすい。子どもへの自覚を促す。			
行事の見直し	全体	年長のすごさをスポットとして当たる機会が多いので下の学年などの視線を感じる機会が多い。			
	入園式・・・二段階方式	ぐみはあっさり終わることで部屋に行くことが騒々しい中にいる必要がなく、プレとして。保護者も全員で			
	創立記念日・・・保護者なし・園内のみ	ホール全面を使えるので、子どもの表現の幅が広がる。			
		幼稚園への思いを子どもたちが純粋に発露できた 幼稚園へのお祝いを「見せる」ではない、年少さんらしい姿が出せる			
	夕涼み会・・・中止	運動会、木の花祭りの中で、夕涼みの要素を取り込むことで、経験が繋がっていた			
	敬老会・・・お手紙	アナログな取り組み、子どもの中での自覚と想いがもっていた			
	運動会・・・地域開催	運動会の音楽が聞こえやすいことで、世界を感じられる			
	木の花祭り・・・神社	神社の環境が子どものモチベーションをあげる素材			
	木の花まつり、アフター版	残り物を別日に預かり時間等に売る経験(限られた大人だけではない関わり) 他の子らもそういう場を見てまつくりの品物などを見る機会。 やりたい、という子らでやっていたのでモチベーションが高い、続けてやりたい。自分の店のモノ以外の商品へのとりつかい、解説、セールストークを磨いていた。 商品への価値観を見出していた子らが立候補していた。 年中児もアフターのお店に保護者と再び買いにいっていた。			⇒取り組みの中で準備ができたらオープン
		もちつき		父たちの参加人数の多さ、時間差で異学年交流ができない 園発信でのお手紙等で当日の約束や条件などを伝えていないことで、参加者が勘違いしているケースも・・・	祖父母等が来る場合は、写真のことなど、おたよりにその都度記載する。
クリスマス会・・・園内 保護者限定	適度な人数で見られる緊張感がある、空間スペースも確保できる。 サークル活動でのOB参加の意義について	人数を増やしてキャパをどう確保するか？ 子どもにとっては？			
父レク	父レクの中身を園主導で出すことをこじれることなくスムーズ。考えてもらっても、それって・・・と思うことも多いので、こちらから降ろす方が園にも親にもいい。 子どもも異学年交流のきっかけ	おやじの会としての想いもある(おやじたち主体の発想や考えをどうくみ上げるか?) おすそ分け(合同)をどうするか？という難しさ(年少・3歳ぐみ)			

土曜日企画など	ビデオトーク	年長、年中の縦割りの中で育ちの見直しなどが親にもわかっていい		
		親も異学年交流ができる。		
		年長、年中の親の視点、意見の違いが見えてよかった。	感染対策を立てると距離をあけるので話し合いになりにくい(ソーシャルディスタンス)	
土曜日保育			土曜日保育の子どもの対応が難しい	土曜日の園開放はどうか？ 有料、掃除付きなど
				近隣幼稚園との連携はできないものか？
サークル活動	サークル活動	異学年の親の交流につながった	時間と場所の課題(コロナ禍の中、密にならないように工夫が難しい)	
	・絵本	音楽とコラボもできる(自主的な活動)		
	・体にいいこと	土曜日企画でOGは入ること縦の繋がりができる	保育とサークル活動との兼ね合いの難しさ、駐車場問題。	長土塙交流館の活用も検討
		コラボ企画することで心強い。クッキングとのコラボ	参加メンバーでやりたいことを盛り込むが、盛り込みすぎで計画だおれになりやすい(コロナの影響も)	
	・クッキング	土曜に開催することで、2号の保護者も参加できた。	週一度のお弁当の日がなくなり、活動日を設定しにくくなった。	
	・アウトドア		園外保育に付き添いのメンバーが少ない。計画を立てる際に他のサークルとバッティング。	年間計画の立案と共有の必要(曜日で決めるとか)
	・チクモク		活動日の設定の難しさ(他サークルと重ならないように…)	
・音楽	土曜日保育の子も参加できるような機会になる。	企画が悩みどころ。次どうするか？悩む。		
子育て支援	キラキラ会		キラキラ会の参加人数の少なさ	
			コロナ禍のため園の中に入れないことで行きづらい、話づらい	

自由記述 (他によかったことや今後に向けて取り組んでみたいこと、課題やその改善、気持ちを活かし、良さを伸ばすためのアイデアなど)	<p>・行事に関しては、スタッフ一人一人が工夫を凝らし頑張っていると思う。が、自分を含め、行事に重きを置きすぎているのではないかと…。毎日の遊びの中から子どもたちの興味関心を捉え、そこから行事に繋げていく必要があると思う。スタッフはそのことを十分わかっているながらも行事が始まると行事中心の生活になってしまっている。今年度立てたチームになってのテーマについて、考えるだけではなく地道に続けていきたい。</p> <p>・行事については、コロナをきっかけに試行錯誤しながらその時その時のよりよいやり方を探っていくと思うが、自由遊びの方はあまり意識の改革がされてないように感じる。自分自身はレパートリーが乏しくマンネリ化している部分もあると感じる。若い先生達には行事よりも遊びの方でもっと思い切りやってみたいことをやってもらい、そこから新鮮な感覚やアイデアを学ばせてもらいたいと思う。</p> <p>・行事に関しては、コロナ禍2年目で、去年の事を参考にして、取り組む事が出来たように思う。コロナ禍だから、木の花まつり(バザー)は神社ですること出来たし、運動会に関しても、毎日河原に行き、子ども達にとっても、「河原」は身近な場所になったのではないかと。自分たちの「街」を子ども達も意識しているのではないかと。また、地域に住む人にもアピール出来たというか、温かく見守ってくれていたように思う。コロナ禍だから、年長児の遠足も地域で行い、遠出が出来ないことで、子ども達にとっても地域の事も知ることが出来たと思う。(コロナをプラスに考えて)</p> <p>・コロナ禍であっても常に変化、変更の日々だったが、そんなことが続いたため子ども大人も柔軟になってきたように思う。</p> <p>・夕涼み会が中止になってしまったが運動会や木の花まつりで部分的に分けて実施していたことで中止になった残念さは残るもの全く体験できなかったわけではないので今年最後の年長さんにとっては良かったのではないかと。『おじいちゃんおばあちゃんらしいの会』ができずに中止になったが代わりにぐみは起き上がりこぼしを子どもの写真を付けて送った。遠方の祖父母にとっては会えない分写真で顔が見られ形として残すことができたので喜ばれたようである。また、電話で話さずかけになった家庭もあったようである。</p> <p>・預かり保育に関しては、職員とは別に午後の保育から入ってもらって、預かり担当の先生の存在があるというように思う。実際にサポーターさんには入ってもらっているが、おやつ、記録などは当番の先生がやっているもので、その部分も含めて「預かりの先生」があるといい。または、以前研修で行かせてもらった園でしていたような「放課後のクラス」のようにチーム分けすのもいいのではないかと。ずっとそのクラスではなく、始めの30分くらいはそのクラスでおやつを食べたり、ちょっと活動すなど(テーマ別の取り組みも、その時に出来たらいいのでは)。そうすると、異年齢交流も出来るのではないかと。ただ、今後、2号も子が多くなると預かりの子も増えるので預り時間のほいくについて何か動かないといけないように思う。</p> <p>・預かりの時間の年中年長の荷物置き(S字フックの活用)は、通路の確保もでき、みばえもきれいで、何よりも子どもたちが自分の荷物を自分で管理する意識につながっていいと思う。年少の荷物の置き方も何かいい方法があれば…と思う。(いつもごちゃごちゃになっていて、みばえも悪く、忘れ物も…)</p> <p>・おやつの有無を子どもたち自身で考えて選択するのは考える力がついたり、あそびを中断させることがなかったり素晴らしい面もたくさんあると思うが、おやつがすぐくれていることあるので、残食の面を考えると少し残念だと感じるところもある。</p> <p>・お列に出る子が減っていることについて 1号より2号が多くなれば 仕方がないと思う。お列を続けるには コースを見直して 減らしてもいいかと思う。</p> <p>・サークル活動を土曜日にするのは賛成。駐車場の問題の解消にもつながるし、土曜保育の子にとってもいつものメンバー以外、いつもの雰囲気以外を感じることが出来るのでいいと思う。</p> <p>・サークル活動では、保育者が企画、準備するのではなく、窓口くらいなスタンスで、保護者が音頭を取って進めていけるようになるといい。(何気にサークル活動の内容を考えたり、日にちを設けて準備する、参加する時間が後半になるほど負担に感じてきたので…)</p> <p>・今年絵本サークル部長を引き継いで色々やってきて、母たちが自分たち独自で動き出す姿に驚かされた。この姿がとてもいいと感じたが、駐車場問題などで任せきれない部分があったり、活動時間の制限があったり等、サークル活動の難しさも感じる一年だった(コロナも相まって…)。預かりの時間帯園外に出てもいいくらいレキンプルな時間が確保できれば先生たちの精神衛生保護も含めていいのかな〜と感じる。また他の先生からのアイデアを受けて絵本福袋をやったところ好評だったので、今後他の先生達のおすすめなどの福袋(お楽しみセット)を作っていきたいと思う。</p> <p>・年少さんの大掃除の日、年少役員さんが妊婦さんということで、大掃除を休んでいた。年中の役員さんが、「手が足りないだろうし、年少役員の代わりにします。」とい、大掃除を買って出てくれた。そんな様子を見ていて感じたのは、保育参観をしない、園お仕事をしながら保育の日常の様子を垣間見るという木の花スタイルを、どのお家の人にも必ず一度は体験してもらおう。働くお母さんたちにも体験しやすくするため(仕事も持っているからこ体験してもらおう)に、一日先生や、大掃除も、決められた日以外でも、一年を通して、そのお家(父or母)の方が参加できる日に、出来る事をしてもらう、というのはどうか。</p> <p>・今年度もコロナの影響で、園への保護者の立ち入りを制限することが多くあった。保護者の方もその事はよく理解してくれていて、出来るだけ園には入らず、職員との会話も最低限にと気遣ってくれている方も多数おられた。その反面、園での子どもの様子が分からない、聞きたいけど、遠慮してしまう等の声も聞かれた。今年度初め、保育の見える化という話もあったが、まずは保護者と顔を合わせ、何気ない会話から、お互いが話しやすい雰囲気を作ることも必要なのではないかと感じることがあり、その時間の確保という意味で、朝の玄関で子どもを受け入れる当番をフリーだけではなく、各担任も時々担当すればいいのではないかと。思う。</p>									
---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

観点	評価 A: 自信をもって B: 概ね良好 C: 改善の余地有 D: 課題である E: 全然出来ていない					園長	教職員						
	日常生活と年間行事の在り方の見直しと再編成	園は、コロナアフターを見据えた、これからの時代に対応できる新たな子ども園としての教育・保育を活かす園生活、園行事への試行、改善に取り組んでいる					A	B	C	D	E	無	
		C		11	4								

#### Ⅳ 新時代に対応できる多様な協働的スタッフ体制の構築

視点	項目	実践したことでのよかった点、改善されたことなど	課題として挙げたこと	改善へのヒント・アイデアなど	
①情報共有の課題改善	ラインの活用	職員全員に同じ情報がいく(一度で情報を共有できる)園長が入ったことが大きい！？			
	終礼	早番などの当番や駐車場などの確認事項することで確認がスムーズ	会議化しつつある。毎日会議になりつつある。		
		職員同士が顔を合わせる機会としていい	しかし細かい情報共有がされていない		
		時間の区切りがつけやすい(帰宅しやすい)			
	職員会議	全員でなくてもいい、というのが楽。早番等でいなくても記録ノートで代用可能。	時間 会議の中身で全員で話すことなどのメリハリ		
	職員会議	ZOOMを活用した会議での共有	会議の話題では他人ごとになってしまう 全員で話すべきこと・そうでないことが区別できてない。	職員会議の議題を水曜日に職員ラインに挙げる。職員からも議題として挙げてほしい事柄を主任に伝える。	
	キッズビュー等のICT	保護者による登園、降園のチェックでの負担軽減	要録と出席簿との合計が合わない。	キッズビューの運用にICTサポーターによる対応は？(個人情報問題がある)	
各種提出物		ルーティーン(出勤簿・提出物・各種届出)がなかなかできない。	ハンコレスは？(タイムカードの導入など実際は難しい)		
職員交流	オンラインでの飲み会もできた		お楽しみの減少(職員会計の使い方や全員参加できない)		
	コロナ禍とは言え忘年会ができた				
②働き方改革の課題改善	担当の係	オクレンジャー、絵本など担当分担などで負担軽減と職員間の共有			
	ノーコンタクト	事務課題を自分の中で整理ができる、集中してできる。	ノーコンタクトの調整、確保が難しい。	面談方式から懇談方式で1回はどうか？(ビデオトーク)	
	当番	早番・遅番の二人体制の安心感。			土曜勤務の半日をノーコンタクトに充てるのはどうか・・・。
		預かり・・・曜日での担当割が分かりやすく調整もしやすい。			
		早番、早二番、遅番、遅二番などその都度柔軟に改善(誰でもいえる関係性)			
	サポーター	話をする機会をするが増えた。意識するようになった。		「今日サポーター、必ずしも必要だった？」と思うことがある。補助スタッフが本当に必要か？という日もある。人が多すぎることも？	特に、行事がたて込んでいるときに、人の多さを感じる時があった。
		サポーターさんが持ち込む遊びが広がる(泥団子、こま回しなど)		行事本番を共有できない。	各クラス単位で見ると、フリーズ、サポートセンターの配置が必要と感じるのだと思いますが、 全体の動きを確認し、空間ごとに必要な配置として考えて、フリー、サポーター必要数を決めても良いのでは。
サポーターの持ち味を生かした保育ができた(運動会でやクリスマス会などの楽器での伴奏など)			もうちょっと突っ込んだ話ができない。どのタイミングで？どこまで？		
ぐみ棟でも材料を持ち込んでオーナメントづくりなどを楽しむ		サポーターさんにどこまで頼んでいいのか？遠慮してしまう。			
サークル	先生なしでもいいよ、と言う自主的な集いで企画が進む		日程調整、時間制限(預かり)、駐車場などの利用制限などが難しい。		
③人材育成と保育の継承	園内研修	サポーターとの園内研修での子ども理解の情報共有ができた			
	期別	フリーと担任、ぐみ担当別での同時並行で時間を当該学年で費やせる	学年ごとの学び、課題、方向目標など全体共有がはずらい	記録の活用がされていないように思う。どうしたら見えるか出来るか・・・。	
	自己評価	昨年度の課題を振り返りつつ、課題の改善事項などを確認し合えた	全員での参加が難し意見が出そろわないケースもあるのでは？	土曜日の園内研修を利用して全員参加の機会をつくる。	
	インリアル	ぐみでのインリアル分析も勉強になる。こんな思考力、創造力などが分かかって驚き、結果保育につながっている		インリアルに参加した先生はそこの話などを聞いているが、インリアルで話されたことで共有した方がいい事などの話があるといい。(簡単な報告というか、まとめ？関わりで気を付ける参考として)	
	世代別研修	シャッフルで普段聞けない話など気軽に聞けたり、話せるできる。			
	園外研修	出やすいような環境を作り、それぞれが多様な研修に参加している	個々による園外研修参加の隔たりと報告と全体共有の課題	報告会を年度末会議の際に設ける。	
自由記述 (他によかったことや今後に向けて取り組んでみたいこと、課題やその改善、気持ちを活かす、良さを伸ばすためのアイデアなど)		担任にとっては、平日の午後には事務仕事が出来るといのは、子どもたちから離れてちょっと一息つけるという意味もあり、仕事の効率が高くなるのではないかとと思う。しかし、実際には、当番や行事等により日程を確保するのがなかなか難しい。土曜勤務が当初の予定の半分の出勤になっていることを考えノーコンタクトが欲しいスタッフは、思い切った土曜日の半日を月に一度ノーコンタクトに充てるのはどうかと思う。			
		職員会議の内容や職員間の交流・情報共有の方法はもっと整理する必要があると感じる。若い先生が増えて、木の花も「ベテラン」「若手」の2層構造みたいになっているが、全部が全部を全員で共有して理解し合おうとすると無理があるような気がする。			
		LINE、ZOOMの活用や、終礼、預かりの曜日での担当割などスムーズな情報共有や分かりやすさなどを工夫しており、全体が働きやすくていいこうという姿勢がありよかったが、時間をもっと有効に使えたらいいなと感じる部分(ZOOMを繋げて会議が始まるまでの時間、会議内容のメリハリなど)もあった。			
		園外研修がコロナの影響でズームに変わったが、研修の前後ギリギリまで自分の仕事が出来てよかった。ラインを活用することで休みの職員の情報共有が出来、給食を準備する時に役立った。			
		預かりの当番が曜日固定なものも分かりやすく、事務仕事や打ち合わせなどの予定をくみやすかった。			
	こども園のシステマチックなことはルーティン化してきているところもあり、負担が減ってきたり、残業も若干減ったと感じるところもある。(園整体的に)昔、上の先生がいるのに帰りにくいと感じていたところが、早番の勤務時間が終わるとすぐに退勤し、定時後に退勤できるようになっているのはいい風潮だと感じる。ただ、実務的な負担軽減になっていない部分もあり、どうしたらいいのか・・・と改善点が見えない課題もみられる。やはりコロナもあって無駄話の時間がぐっと減っていると思うので、何気ないコミュニケーションをとっていける余裕(時間的にも心的にも)を職員全体で作ってあげたいと感じる。				
	職員のリフレッシュ、交流の場が「義務」ではなく、楽しそう！と参加できるようになったらいいと思う。				

・世代別は同じ世代だからこそ話やすいということもあるが、世代別のシャッフルもなかなか普段ゆっくり話せないのていい機会であった。楽しい時間であった。
・土曜日の園内研修にサポーターさんやキラキラのお家の方が来てくれたことで、普段なかなか聞けない・できない話をする事ができたのでよかった。
・サポーターさんやキラキラ会を交えての研修では、正規スタッフとは違った視線もあり面白かった。お家でのをとったビデオなども普段見ることのない姿を知ることができていいと思った。
・サポーターさんに対して、もっといろいろと話をし、やってもらったり、意見を聞いたりするのいいと思う。担任やフリー以外の目で見ている側の意見も聞けるといいと思う。絵本を読んでもらったり、ちょっとした時間を過ごすことを頼んでもいいかもしれない。
・どんな活動をしたのか・・・、その活動内容によってサポーターさんの人数を吟味していかなければならない。サポーターさんが入ることで子ども達にとってはどんな影響があるのかを考えて。

観点	評価 A:自信をもって B:概ね良好 C:改善の余地有 D:課題である E:全然出来ていない	園長	教職員					
	新時代に対応できる多様な協働的スタッフ体制の構築		A	B	C	D	E	無
		園は、子ども園としてのスタッフ同士の連携、協力がしやすい、働きやすい職場環境作りにも努めると共に、これからの時代の多様で協働的なスタッフ体制の整備に努めている	C	10	5			

### 全体を通報しての自由記述による園評価

・今年度もコロナが猛威を振るい、"こども園"として、また、"コロナ対応"として、色々と試行錯誤しながら園として取り組んできた一年であったかと思う。

・ウィズコロナということで、生活や行事、保育の在り方の工夫を強いられているが、発想の転換、マンネリの打開にも繋がっているように感じ、何よりも当たり前・・と思っただけだったことを、子どもの育ちにとって・・という観点で今一度考え直す機会となって、少しづつ保育に反映していていることがいいと思う。

・コロナの感染状況に応じて行事や保護者対応をそのたびに職員で話し合い、決めていったことでコロナ禍2年目でもあまり混乱はなかったように思う。スタッフも子どもも家族も変化に慣れていい意味で固定概念がなくなってきた。

・今年もコロナと共に・・・の一年だった中で、昨年度の経験・反省を活かして今年の保育・行事を考えていたことがいいなと思う。去年はこうだったから今年も・・・ではなく、去年はこうだったけど今年は・・・と、良かった点を残しつつ改善点を見直しながら、コロナ禍での木の花保育をつづけている園長や先生たちの姿勢がすてきだと思う。また、日々の保育や行事(例えば、発表会の構成と一緒に考えてアドバイスしてくださったり、準備を手伝ってくださったり。)では、親身になってくれる先生たちのおかげで乗り越えられたと感じる一年だった。

・今年度もコロナ対応に振り回されているうちにあっという間に一年がたったという感じ。正直、やろうと思っていたことが出来なくなって延期になるうちに意欲がそがれる、ということもあったが(例えばサークルの活動など)、そんな中でも簡単に全てを止めてしまうという結論にならないのが木の花の強みだなと感じた。

・コロナ禍にあっても、その時々を考え合い、新しいことにも積極的にチャレンジするなど、いろんなやり方を模索しながら前向きに進めていく園の方針に共感する。

・コロナ禍の中で、今まで当たり前に行ってきた行事などの見直しをする事で、プラスに働いている事もある。創立記念日のように、お客さんなしで、こども達だけでお祝いする事の良さも見えてきた。運動会やバザーにしても、まだまだ手探りの状態で行っているが、やり方を変えて出来る！！を実感。「コロナだからやらない」ではなく、どうやったら出来るか、をこれからも探っていかなければいけないと思う。

・コロナの影響もあって、行事という大きな取り組みに目が行きがちだが、空間の使い方、整理整頓、異年齢での関わりなど日々の生活を見直したり、発達段階を意識し少し工夫することで、子ども達の意欲を引き出したり、子どもにとっての学びが拡がり、学びの体験をより積み重ねていけるということを実感した

・園内で行う行事等(入園式、創立記念日、お泊り保育、おもちつき、クリスマス会、発表会など)については、コロナ対応を含めそれなりに形が出来てきたように感じるが、園外を含め分散して行う行事(運動会、バザー)については、まだまだ課題(空間、場所の使い方、各学年の折り合い、取り組みの中でのスタッフの人数調整、日程の調整など)があるように感じられ、次年度はこの辺りをスムーズに行える、各学年の担任のストレスを少しでも少なく、自分の学年の子達のごとに集中できるような環境になればと思う。

・一日入園についても、以前のように20名ほどの子が来園するというようなことはもうないと思われるので、そのやり方や取り組みの内容も考えていかなければいけないかと思う。5、6名の小さな子達が来る、その中で年中さんはどのように関わろうとするのか、どのような関りがよいのか。年少、年長児もどのように参加するのか。同学年になるブチ、ぐみと参加した小さな子が思いきり遊ぶ、関わるような企画を年中さんが考える・・・など、また皆で話し合えたらと思う。

・密を避ける為に地域に出かける機会も意識的に増え、子ども達の地域への関心の高まりが見られた。また、お世話になった地域の方を身近な存在と感じ、手紙を書いたり、お礼に行くなどの取り組みも通して、人と人との関係性が希薄になりつつある状況下にも多様な人との関わりが生まれたことに感謝する。

・コロナ禍ではあるが、どうすれば木の花らしい保育が出来るか、その都度考え実行出来ていたと思った。こどもたちに何を体験させたいのか、ねらいは何なのかを考えることで改めてその行事自体も見直すことが出来た。優先順位を考え、時には同窓会や夕涼み会など中止にするといった苦渋の決断もよかったと思う。木曜日のお弁当の日がなくなったことで、いろんなデメリットもあったが、お弁当がなくなり悲しんでいる子には、曜日を決めお弁当の日を作るなどの個人対応をしたり、外に出にくいといったデメリットには、ぐみの遠足の日に初めて給食のデリバリーをした。今後ももっとデリバリーを活用出来るようにしていきたい。

・コロナが流行している中で、運動会大きな場所を借りて開催したり、クリスマス会や発表会を密を避けたり参加人数を制限するなどして開催できて良かったと思う。他園は行事を中止にしたり、保護者は参加できないという話を聞いている。そんな中でも感染対策を徹底したり、保護者の協力もあり今までのようにはいかないものの開催できたことは良かったと感じた。

・以上児との交流は、まつくりの子が先生としてぐみに来てくれたり、さくらあんの子たちとは3学期に入ってからだが散歩と一緒にいくことができてりと毎年課題が上がっていた以上児との交流を意識することで改善してきたように思う。クラスの担任ともゆっくり話す時間の確保があると良いのかもしれない。世代別の1つとして担任シャッフルや2クラスごとで話す機会があるとまた交流する機会が増えるかもしれない。

・今年ぐみの子は物怖じする子が少なく、2歳児どちらも自ら本園の方に遊びに行きたがる子が多い。そんな中でも、活動途中でもホールの片隅を使わせてもらったり、活動によっては交ぜてもらって一緒に参加させてもらえたりと場所を使う制限がある中でも子どもたちは以上児の子たちの様子に興味をもつことができてり、身体を動かすことができて良かった。

・こども園になって3年目、1年目に1歳児さんだった子が年少さんになっている。未満児の育ちがあって(それぞれの育ってきた生活があって)年少さんとして過ごしている日々。ぐみから上がった子は、ぐみ同士でくつきがちだが、2学期以降、少しずつ人間関係にも広がりが見られてきている。(それはブチにも同じ事がいえる。)新入園児とブチ、ぐみ、それぞれが毎日の生活を通して相手の事を感じ、「遊んでみよう」と人を求め、新しい関係を楽しんでいる感じがする。中には、今までの繋がりを求めている子もいるが、少しずつ関係が広がっているように思う。その年のこども達のタイプによっても違うだろうが、1年目の事を振り返り、どうしたらいいかを考え2年目があり、実際にやってみての3年目がある。2学期後半からの、ぐみ2歳とブチとの交流はとっても意味があるように思う。同じ学年として、一緒に生活することで、4月に年少さんになった時に、相手の選択肢が増え、それが遊びにも影響してくると思う。そして、ぐみ2歳もブチの友達だけではなく、保育者との関係においても色んな先生と関わる事が出来ると思う。

・サークル活動は木曜日を利用して活動していたのが給食になったので活動日が減ってしまいました。しかし、土曜日に開催することで日頃お仕事でサークルに来れない人も参加出来たり、少し時間がかかるようなことも出来たのがよかった。最初サークル料を払ってくれたが結局サークル活動に1度も参加できなかったメンバーもいたので、払った人と払ってない人の確認が大変というデメリットもあるが、サークル登録料は参加する1回目の活動の時に支払うのはどうか。

・土曜保育に関しては、申し込み締め切りが過ぎてからの申し込みがあったり(勤務が出ないとわからないというも仕方がないこととは分かるが・・・)、前日にキャンセルになって出勤じゃなくなったりと、土曜日の予定が組みづらくて少し困るな・・・と感じることがあった。

・ノーコンタクト、先生たちにとっては、短い時間でも集中して仕事が出来るという事で、あった方がいいように思うが、なかなか時間の確保が難しいのが現状。ノーコンタクトの日にサポーターさんに入ってもらえるのはどうか、と思うがサポーターさんに入ってもらってまで時間の確保をする必要があるのか、とも感じている。ノーコンタクトにも絡んで、預かりの担当の先生を学年二人ずつ、ではなく一人とサポーターさんとするなど。どんなやり方がいいのか考えて行かなければいけないと思う。

・担任・フリーそれぞれの立場で思いがあるのはよく分かっている。が、大人がどうしたいかだけではなく、子どもにとって何が大事で何が必要なかを話し合いながら考えていく事で、また新たな道が見えてくるのではないか。サポーターのかず。空間の使い方、モノの配置、子どもたちの人間関係・・・etc。木の花は、年齢・経験年数関係なく自分の思いを伝え合うことができるのが良さであると思う。みんなで意見を出し合いながらより良い方向を探っていきたい。

・自分の意見を言やすい雰囲気、環境。意見を尊重して聞いたり、親身になってくれる園長や先生方がいる寛容な受け止め方が木の花の魅力の一つだと思う。保育は日々目まぐるしいが、子どもにとっても大人にとってもいろんな体験を肌で感じる事が出来る。考えることも多く心が折れそうになることもあるが刺激的で面白いとも感じる。

・幼稚園は、保育(取り組み)に関して常に様々な意見や考えを尊重してくれる。また、子どもにとってを1番に考える事が出来るこの環境は、非常に恵まれていると感じる。(できていそうで、他ではできていないことだと思うので)

・年配のスタッフは、子どもたちだけでなく、若いスタッフに対しても、過保護になりすぎず、「失敗は成功の基！」という精神で、見守ることが必要だと思う。

・経験年数がある先生はついつい「木の花あるある」で行動してしまい、若い先生に伝えていなかったり……。一つ一つやりながら「こうなんだ」って感じて行ってもらいたい。前もって気付いたことは声を掛けて伝えていけるようにしたい。

・スタッフ間で情報を共有する、コミュニケーションをとる・・・など、未満児保育を始めてから、物理的に難しさを感じることも多いが、ズーム利用や世代別研修のシャフルなど出来るやり方を探ったり、スタッフの負担軽減の為にスタッフ一人ひとりの意見にも耳を傾け、改善の方向に向かって対処しようとしてくれる姿勢が有難いと感じる。

・園外研修は今年度はコロナの影響で行くことができなかった。他園の見学にどんどん行ってみたい。他園の先生が木の花に見学に来てくれたことで、他園の話を聞くことができて良かった。良い機会であった。

・学期ごとの土曜園内研修が毎回配慮の子がテーマで、それ以前のこと(園の事、クラスの事、悩み事など)を解消したり、ヒントになるような園内研修が組み立てられていないように感じるので、園内研修テーマを先生達が考えていくような形にできたらいいと感じた。例えば一学期研修リーダーがテーマを設定、どんな研修にするのか考え・運営していくなど・・・(園内研が他人事にならないように自分が学びたい事が研修に反映できるきっかけになればと思う。)

・事務・業務の効率化はまだ課題が残ると思う。

・終礼が会議化してきてという点があったが、もっとティータイム的な乗りを作れないかと感じる。軽い感じの話だと、下の先生も気軽に話せたり提案できるのかなと思う。(現状の終礼の向かい方が話しを聞かなければいけない！という緊張感が漂っているような気がするので、もっとラフになればいいと感じる。)

・確かにやらなくてはいけないこと・考えなくてはいけないことが多く、ハードワークだと思うが、園は常にスタッフの働きやすさについて考えてくれていると思う。自分の権利や困っていることだけを主張するのだけではなく、恵まれていることも知りつつ、園としての課題にどうしていけばよいかみんな考えていきたい。